

帯広東ロータリークラブ 創立と初期の軌跡を補足する資料

1. 創設の機運と歴史的背景

帯広東 RC が創立される前、第 6 分区には帯広市内に 3 クラブ、町村 5 クラブの計 8 クラブがありました。帯広西 RC が昭和 47 年（1972 年）に創立して 10 年を過ぎた頃から RI 第 250 地区（注 1）歴代ガバナーから第 6 分区内にもう一つクラブを創設するよう帯広市内 3 クラブ会長に対して要請がありました。当初、町村内に 1 つのロータリークラブを創設することに尽力されたとのことですが、音更町、幕別町、池田町、本別町、大樹町などへ創設することは関係者の努力次第で不可能とは言えないのではないかといった観念的一般論に基づいた要請でした。しかし、過疎進行している地方町村の現状と他の奉仕クラブの先行定着という既定事実の前では、町村内指導者の合意と協力を得ることが出来なかったとのことと急遽、帯広市内に第 4 のクラブを創設するべく要請がありました。

昭和 58 年度（1983 年）4 月と 5 月の 2 回に渡り、1982-83 年度 RI 第 250 地区ガバナー田巻寅三（たまき とらぞう）氏招集による市内クラブ 3 クラブ新旧会長幹事会で「市内 3RC の協力のもとに帯広市に第 4 番目のロータリークラブを創設する方向で努力をする」という約束が交わされました。

注 1：1991 年にロータリー地区制度が見直され、現在の 4 桁表記になっています（第 250 地区⇒第 2500 地区）

2. 創立に向けた具体的な動きとスポンサークラブの役割

その後、1983-84 年度帯広北 RC 新田文雄会長年度へ引き継がれ、帯広 RC、帯広西 RC の全面支援をいただき、新クラブ設立のイニシアチブを取ったのは、スポンサークラブとなった帯広北ロータリークラブ（北 RC）であります。

合意形成と特別委員会の設置：1983 年 8 月 15 日には、市内 3RC の会長幹事会で正式な協定が成立しました。協定の柱は以下の通りです：

1. クラブ拡大に 3RC が協力して市内に第 4 の RC を設立すること。
2. スポンサークラブは北 RC とすること。
3. 各 RC は拡大委員会を設置すること。

この合意を受け、大原ガバナーの公式訪問前日である 8 月 25 日には 3RC の拡大協議会が招集されました。翌 8 月 26 日、北 RC はガバナー訪問のクラブ協議会直後の臨時理事会で「クラブ拡大特別委員会」の設置を決議し、具体的な活動に入りました。

新田会長のリーダーシップと難局の克服：北 RC の当時の会長であった新田文雄氏は、創立に向けて抜群の企画力とリーダーシップを発揮し、発起人会設立のための度重なる会合を主導しました。しかし、新しいクラブを設立する過程では、区域分割や会員移籍に関して、思わぬ内外の抵抗や障害が発生しました。

特に困難を極めたのが、長年所属したクラブへの愛着から移籍を躊躇するメンバーへの対応です。初代会長となる福岡正雄氏（当時は会長予定者）と佐直次郎氏（後の第 5 代会長）は、この難局を乗り越えるため、選挙運動さながらに夜毎一軒一軒を回って移籍を勧

誘し、会員を確保するという多大なご苦勞をされました。

特別代表の任命と初代会長の決定: 1984年2月2日、北RC会員であった渡辺真氏が「ガバナー特別代表」への就任を快諾されました。そして、初代会長予定者としては、当初新田文雄氏が期待されていましたが、最終的に渡辺真特別代表から北RC会員の福岡正雄氏が指名され、受諾されました。福岡初代会長は、ロータリーに精通し事務能力も高かったため、新クラブの円滑な船出に不可欠な人材でした。

創立総会と認証: 幾多の困難を乗り越え、帯広東ロータリークラブは1984年6月15日に創立総会と創立祝賀会を帯広グランドホテルで開催いたしました。この祝賀会は、市内既存3RCが例会日時を変更して合同例会とする形で全面的な支援をいただき、会場は300名の会員で埋めつくされる極めて盛大でなごやかな会となりました。そして、1984年6月18日、帯広東ロータリークラブは正式にRIによって認証されました(RIクラブNo. 21917、地区創立順位64番目)。

3. 創立から5年間の目覚ましい発展 (1984年~1989年)

帯広東RCは創立後わずか5年間で驚異的な成長を遂げました。チャーターメンバー40名(うち北RCからの移籍は28名)でスタートしましたが、5年後の1989年6月15日現在で会員数は82名に達し、地区内でも中堅以上のクラブとして力強く発展しました。

年度	会長名	会員数 (年度末)	特筆すべき活動
1984- 1985	福岡 正雄 (初代)	53名	認証状伝達式を盛大に挙行。北野満副会長、徳井信雄幹事の支えがあった。奥様方の協力による家族野遊会開催。
1985- 1986	伊豆倉俊雄 (第2代)	64名	ガバナーの中原氏からの強い要請を受け「会員の増強」を第一の柱とする。家族会では100%の出席をいただく。
1986- 1987	佐野 光男 (第3代)	68名	永年の懸案であった財団法人帯広北・東ロータリー奨学会が設立認可され、奨学活動を開始。アメリカオハイオ州第663地区からの研究グループ受け入れ。
1987- 1988	北野 満 (第4代)	74名	IGF (Inter-Group Fellowship) のホストクラブを担当。粗食デーの実施、あいさつの励行を掲げる。
1988- 1989	佐直 次郎 (第5代)	82名	RI 第250地区地区協議会および会長エレクト研修セミナーのホストクラブを成功裡に開催。長谷川晃三会員がガバナーエレクトに選出される。創立5周年記念事業として道立美術館へ美術品購入資金を寄付。例会出席率が常に100%を維持。

特に、創立からわずか5年で地区全体のリーダー候補であるガバナーエレクト(1989-90年度RI第250地区ガバナー長谷川晃三氏)を輩出するという「快挙」は、クラブの質の高さを何より証明するものであり、地区内で指導的クラブに成長したことへの満腔の敬意が捧げられました。

4. クラブのシンボル「馬」の深い由来

帯広東 RC のバナーに描かれた「馬」の由来には、このクラブが発足した地域、すなわち「東地区」に込められた深い歴史と願いが託されています。

「東」の持つ意味：帯広の語源はアイヌ語の「オペレペレケプ」と呼ばれ、帯広川が十勝の母なる川「十勝川」に合流するこの「東地区」こそが**帯広発祥の地**であります。帯広東 RC は、帯広市内 4 番目のクラブではありますが、この「一番歴史のある地域を区域限界として発足」いたしました。

「馬」に込められた願い：帯広開拓の当初から「馬の活躍」と「馬産振興」は帯広にとって忘れられない存在でした。バナーに描かれた力強い馬は、何も無い原野を切り開いた開拓者たちの精神と、新しく産声をあげた帯広東 RC が、威勢の良い「いななき」と共に、天高く飛躍していくという願いが込められています。

なお、このバナーに描かれた「馬」は、幕別町明野に在住されていた故・土井博嗣画伯の作品であります。

5. その後のクラブ活動の継続と継承

創立時の情熱はその後受け継がれています。直近では創立 40 周年（2024 年）といった大きな節目を迎え、クラブは地域への貢献を続けております。

特に 40 周年記念事業においては、地区補助金を活用し、「帯広まちなか歴史案内板」を依田勉三翁ゆかりの地など市内 3 ヶ所に設置し、自分たちのルーツである地域の歴史を次世代へ伝える活動を行いました。

そして、創立 50 周年（2034 年）という新たな節目へ向けて、現在歩みを進めております。50 年という年月は、単なる数字ではなく、多くの先人たちの知恵と努力、友情と奉仕の積み重ねであり、まさにクラブの誇りと責任の象徴です。

これまで築き上げてきた歴史と伝統を礎に、次代を担う新たな仲間たちとともに、社会の変化に柔軟に対応しながら、さらなる発展を目指すことが求められています。

かつて、何も無いところからクラブ創設に挑み、困難を一つひとつ乗り越えてきた先輩たちがいました。その情熱と信念は、今も変わらず私たちの中に生きています。一人ひとりがその志をあらためて胸に刻み、創立 50 周年へ向けて、力強く、そして誇りをもって歩んでまいりましょう。